

富山県プラスチック工業会と交流会

藤和ライト工業三好工場を見学

今後も継続の意志を確認し合う

今回の交流会は、富山県プラスチック工業会が名古屋地区の企業視察に合わせ協会・組合との交流会を開催したいとの申し出から実現した。

11月22日(水)富山県プラスチック工業会一行17名と協会5名は午後1時30分から正会員の藤和ライト工業三好工場を見学した。同工場の若山会長、小川社長、立松工場長などの出迎えを受けた後、会議室で協会の後藤会長の挨拶、続いて小川社長から挨拶とプロジェクターによる会社案内が行われた。

その後立松工場長の案内で工場内を見学した。工場は2棟あり、新しい工場には恒温室が設置され、温度管理を徹底し、年中室温が一定になるように設計されており、不良品も少なくなったと説明があった。

小型の縦型ロータリー式成形機でインサート成形が多く、また、二次加工として印刷も行われていた。見学後質疑応答があり、最後に若山



藤和ライト工業三好工場の見学

会長から見学はオープンであるが必ず気づいた点を聞かせて欲しいと要望があり、後日感想文を送ってもらうことになった。

午後4時から名古屋国際ホテルで交流会を開催し、当協会から11名が参加。はじめに経済産業省化学課合成樹脂製品担当専門職藤田治人氏より「日本の化学産業の現状と課題」と題して、化学産業の概況、機能性化学品を巡る諸情勢、環境・エネルギー等に係わる制約、今後の対応、最後にプラスチック製品製造業の業況、中小事業者支援策、リサイクルによる循環型社会の形成など広範囲にわたる話を聞いた。

休憩を挟んで懇談会に移り、中部経済産業局岡本参事官、竹田係長、名古屋市工業研究所山下所長臨席のもと笠井・後藤両会長の挨拶の後意見交換を行った。技術や人材の問題点などそれぞれ意見が述べられた。

懇親会は服部名誉会長の挨拶に続き、富山県の齊藤副会長の乾杯で始まり、お互い初顔合わせとなったが、名刺交換しながら個々の話に盛り上がり、懇談会とは少し違った和やかな雰囲気の中、より交流が深められた。

また、両会長からもこの交流を続けたいとの意志が示された。最後に児玉理事長の中締めで終了となった。

翌日、富山県プラスチック工業会16名が豊橋市の樹研工業本社及び関連会社の工場を見学した。松浦社長自らが案内され、高い技術力は誰

もまねができないと自信に溢れた説明であった。

今回の交流会を終わって、中部経済産業局から中部5県が参加する交流会を実施したらどうかとの問いかけもあり、是非実現したい—という方向性が出された。



意見交換が行われる懇談会

中部日本プラスチック製品工業協会さん との交流会に参加して

富山県プラスチック工業会
事務局長 谷村 実

中部日本プラスチック製品工業協会さんとは定期総会の相互出席や昨年の50周年記念式典へのご招待などでの交流があり、加えて本年7月には東海北陸自動車道が全通し、東海北陸の経済・観光面での活性化が期待される中で、今般の交流会をお願いしたところ、快諾を頂き、更に同業メーカーさんの見学までお世話になってしまいました。

10月22日に当会笠井会長、副会長、理事17名がバスで富山を出発し、午後1時過ぎに藤和ライト工業(株)さんの工場見学の後、交流会開催場所の名古屋国際ホテルへ向かいました。

交流会では中部プラさんより、服部名誉会長や後藤会長など多くの役員が参加され、はじめに経産省化学課 藤田課長補佐より「プラスチック産業の展望」と題して講演があり、その後懇談会が開催され、当会会員の技術開発型企业に対する取り組みや中国からの実習生、研修生制度の今後について等々の質疑があり、まだまだ、懇談会を続けたい雰囲気ではありましたが時間の関係もあり、懇親会で引き続き、交流を深めた。ほとんどが初めての顔合わせで心配しましたが、少なからず経営課題を抱える同業の

経営幹部同士の共通の話題は尽きることがない様子で、服部名誉会長、後藤会長、笠井会長からも相互連携の必要性を呼びかけられ、次年度、富山での交流会開催が話題に上った。

また、工場見学では22日には藤和ライト工業(株)さんの三好工場を若山会長さん、小川社長さんのご案内で、また、翌23日には豊橋の樹研工業(株)さんの本社工場と新工場見学、ここでも松浦社長さんから、同様のご案内をいただきました。ご多忙の中、貴重な時間を割いていただき、紙面を借りて深く感謝申し上げます。

近年の原材料高騰で身を削っている最中に今般のアメリカ発金融危機で国内の実体経済への悪影響が既に表面化しつつあり、景気減速加速の危機感もありますが、一方、プラ業界では生産性向上、技術開発、単発部品から複合部品化等々、長年にわたり高度なノウハウを蓄積しており、中部では環境や安全など今後も世界的な技術革新が期待される車両中心、富山では全体規模は少ないものの海外も含めて多様な分野での生産活動を展開しており、これからのプラ業界は顧客中心の大きな縦軸とともに業界全体の課題に取り組むべき横軸として共創という連携活動も形成していくと言う意味では、今般の交流会では小さな一歩ですが意義あるものでなかったかと感じ、将来的に継続発展していければ幸いです。

最後になりましたが、中部日本プラスチック製品工業協会のますますのご発展と交流会ご参加の皆様のご健康とご発展を心よりご祈念申し上げます。



樹研工業を訪問した富山の一行

ハーモ本社工場ほか訪問

平成20年度 合同支部会実施

今年で4回目となる8支部合同の支部会が10月24日から25日の1泊2日の日程で長野県の諏訪湖のほとりにある上諏訪温泉にて26名が参加して開催された。

初日はあいにくの雨となったが、貸切バスで7時30分に名古屋駅を出発し、まずは駒ヶ根にある養命酒酒造の工場を訪問し、製造ラインや試飲するなど1時間ほど見学したのち、午後から会員企業である(株)ハーモの本社工場と関連会社の(株)日本ピスコを訪問した。

ハーモの本社工場は伊那インターから車で10分ぐらいに所在しており、環境に恵まれた広大な土地に瀟洒な建物が建てられている。

到着すると濱社長から歓迎を受け、挨拶並びに会社概要について説明があり、3グループに分かれて見学することになった。工場では製品ごとに区分けされたスペースで組み立てなどが行われていたが、IPFの出展予定の取出し機もあり、その実演を見た。

その中でも注目されたのが『粒断機』である。粒断機はいわゆる成形品の粉砕機で、回転刃を用いた普通の粉砕機とは異なり、独自に開発されたプレスカット方式を採用することによって、バージン材により近くカットされており、さらに従来に比べて静電気、ミスカット、騒音の発生が抑えられている。

引き続き、隣りにある日本ピスコの伊那工場



工場内で説明を熱心に聞く一行



ハーモ本社の玄関で

を訪問し、ここでは配管用の継手を中心に生産されており、ラインも自動化され、また製品・部品管理はバーコードで行われており、効率化が図られている。もちろん、すべてが自動ではなく、細かい部品の組み付けのほとんどが検査も含めて手作業で行われていた。

さらに少し移動し、諏訪湖畔にあるハーモ美術館を訪れ、濱富夫理事長から絵画についての解説を聴き、名作を堪能することができた。

以上で見学は終了し、午後五時過ぎには上諏訪温泉の宿泊先へ到着。一息ついてから懇親会に移った。児玉理事長の挨拶、服部名誉会長の乾杯で開会した。今回で4回目ということもあり、終始和やかな雰囲気の中、懇親を深め、最後に後藤会長の締めでお開きとなった。

翌日は、昨年同様ゴルフ組みと観光組みに分かれて、ゴルフ組みは諏訪湖カントリークラブ、観光組みは諏訪湖から2時間ほどかけて上高地へ行き、大正池から河童橋まで散策をし、紅葉の美しい風景を見ながら各々が楽しんだ。

午後7時過ぎに名古屋駅に到着し、無事に2日間にわたる合同支部会を終えることができました。

プラスチック用産業合理化機器メーカー
NAKAMURA
中村科学工業株式会社

本社工場 Head office & Factory

〒444-0951 愛知県岡崎市北野町字高塚101
TEL(0564)31-2919
FAX(0564)31-9435

東京支店 Tokyo branch

〒192-0054 東京都八王子市小門町8-37
TEL(0426)20-5466
FAX(0426)20-5461

URL <http://www.nakamurakagaku.co.jp/>

受検者数過去最高の849名 平成20年度前期技能検定

平成20年度前期技能検定プラスチック成形射出成形作業1・2級の合格者が、10月3日愛知県職業能力開発協会から発表された。

各技能士の合格者数と合格率は、1級88名（23.5%、実技：27.9%、学科：62.6%）、2級192名（28.4%、実技：33.6%、学科：59.6%）で合計280名（昨年比－82名）の技能士が誕生した。特に2級実技試験の合格率は、平成になってから最も悪い合格率となった。

今年の実技受検者数は過去最高の849名（昨年比＋60名）に達したため、昨年に続き2級の実技試験を1日3人体制で実施した。今年も失格者と作業途中の棄権者を合わせると378名を数え、欠席者50名も含めれば実に実技受検者数の50.4%（428名）が作業を最後まで終了することができなかった。

原因として考えられることは、検定用成形機を油圧式から3台電動式に入れ替えたため、慣れていない。採点基準の厳格化で失格要件が厳しくなったことなどが考えられる。その他にも毎年指摘されている技能レベルの低下、年を追うごとに酷くなるように感じられる。日頃の仕事の中で成形技術の習得が図られるように、加えて研修等を通しての教育も必要であると思われる。

試験終了後の9月17日名古屋市工業研究所で実施された製品検査・採点会議は、検定委員、



厳正に行われる製品検査

補佐員など総勢95名の協力を得て滞りなく終了することができた。

来年度へ向け意見交換 技能検定委員反省会



挨拶する小林課長

平成20年度前期技能検定が、9月17日の採点会議で3ヶ月間に亘る日程が終わり、来年度に向けての反省会が、去る10月17日午後6時00分より名古屋国際ホテルにて、各事業所派遣の技能検定委員、来賓等合せて50名が出席して開催されました。

まず、児玉理事長から検定委員の方々へ長期間に亘る任務に対して、労をねぎらう挨拶からはじまり、引き続いて愛知県職業能力開発協会技能検定課の小林課長より技能検定業務についてのお礼の言葉があった。次いで、原田委員長より合格率等が発表され、若干採点基準が厳しくなったこと、今年から電動機へ一部変更になったこと、全体的に受検者の技量不足などが影響し、特に2級は過去最低の合格率であり、失格者も昨年より倍増していると報告があった。

さらには検定委員のアンケートの集計をもとに、来年度へ向けての問題点、実技試験実施方法などについて述べた。引き続き懇親の部に移り、後藤会長の乾杯の発声ではじまり、和気藹々とした雰囲気の中しばし歓談を交わし親睦が図られた。最後に愛知県産業技術研究所の彦坂部長の中締めで、閉会となった。

宝永プラスチックを訪問 職練指導員研修を実施

中部日本プラスチック職業訓練校講師研修として6名が参加して、11月7日に鈴鹿市にある会員企業である宝永プラスチック(株)を訪問した。

同社は、自動販売機で国内シェア50%近くある富士電機リテイルシステムズの子会社として、自動販売機用部品の生産および組み立てを主たる業務としている。ISO9001およびISO14001も取得しており、環境や品質への意識は高い。

主力の透明アクリル・ポリカーボネート成形品は自動販売機の外観部品として使用されるため、成形不良や異物が目に付きやすく高い成形技術が求められる。これらの課題にとりくむため、数年前には最新のガスインジェクション成形機を導入し、独自の成形技術を開発している。また製品品質向上のために不良発生原因の追究と防止策を全社的に取り組むなど、技術的努力を継続している。しかしながら未だに不良率が

平成20年度後期技能検定受検申請状況

作業別	級別	受検区分						合計
		A甲	A乙	A丙	B	C	D	
プラスチック成形	特級	32			8	3		43
ブロー成形	1級	1			5	2		8
	2級	9			5			14
射出成形	3級	14				1		15



研修で訪れた宝永プラスチック

高い部品も数多く、ラインでの全数検査や選別など、コスト高騰要因が残されているなどの問題点も抱えている。

現在、流通コストや動力コスト低減のために、工場の移設準備の最中であり、移設期間中の製品の先行生産に追われているところである。また経営環境の変化に対応するため、派遣社員や外国人研修生の割合を高めるなど、一層の経営努力を行う必要があるとのことである。

工場見学後の質疑応答では活発な意見交換があり、同社の技術に対する前向きな姿勢が印象に残る見学会となった。

翌日、ものづくり体験として陶芸をすることになった。参加者ほとんどが初体験であり、インストラクターに説明を受けて製作にとりかかったが、最初はなかなかイメージ通りにならなくて苦労した。しかしそのうち慣れてきてだんだん器らしくなり、各自がそれなりに納得した作品に出来上がった。焼き上がりが2ヵ月後と少し先になるが、出来栄えが楽しみである。

PLASTICS WORLD
YAMASO
山宗株式会社

本社 名古屋市北区大曾根1-6-28 〒462-0825
TEL(052)913-6131 FAX(052)913-6138
東京支店・静岡本社・福井本社・香港・上海
営業所 岐阜・三重・豊橋・松本・甲府・埼玉・西東京
茨城・浜松・沼津・金沢・富山・大分・京浜

**射出成形を
トータルサポート**

NISSEI 射出成形機・金型・複合材料・成形支援システム
日精樹脂工業株式会社
<http://www.nisseijushi.co.jp>

■東海営業所/〒485-0039愛知県小牧市外堀2-167 TEL(0568)75-9555(代)
■岡崎出張所/TEL(0564)52-1430 ■三重出張所/TEL(059)224-0716
■本社・工場/〒389-0693長野県埴科郡坂城町南条2110 TEL(0268)81-1050

スケッチ

高精度、小ロットにも対応
一貫した受注体制可能に

(有)交告プラスチック加工

代表取締役 瀬瀬英一

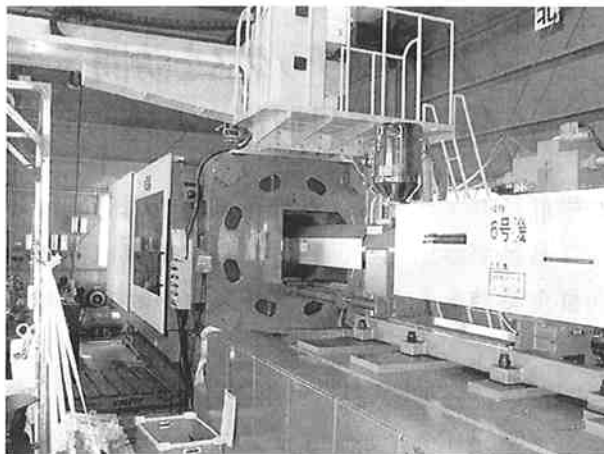


本社工屋

同社は昭和44年現社長瀬瀬英一氏により、射出成形品を製造するため創業され、自動車内装部品の製造を原点に営業を開始した。

昭和53年に有限会社化し、現在の中津川市の南部、中津川沿いの地に本社を移転。学校教材の成形、セット組み付け、農業資材の製造販売、コンデンサー用部品の製造、スポーツ用具の部品製造等、同社で製造が可能である限り、様々な分野のモノづくりの手伝いをしてきた。

現在は射出成形機10台、旋盤加工機5台、表面処理装置3台、試験材料用押出機1台、CAD1台を設備している。また昨年ISO9001-2000を取得し品質の安定と向上に努めている。



660tの大型成形機

同社の一番の特徴としては、フィルムコンデンサーの巻き芯をスリットメーカーの協力の下、本来押出成形にて製造するものを、射出成形によって成形し、高精度かつ小ロットにも対応可能な製品を供給していることである。

今後は、成形になくなくてはならない金型の加工メンテナンスについても、指導を受けながら自社で手がけて、商品企画、設計製造と一貫した受注体制を可能にして行きたいと前向きに取り組んでいる。



小型成形機が稼働している工場内

成形不良率低減への提案
「ハングリー成形法」

株式会社 日本油機

〒229-0003 神奈川県相模原市東淵野辺4-2-2
TEL 042-757-6681 FAX 042-757-6683
E-mail: nihonyuki@sunny.ocn.ne.jp

射出成形機とホットプレス機の製造・販売

射出機の「^{いま}現在」を創り、
「^{これから}未来」を変えていく。

 株式会社 名機製作所

〒474-8666 愛知県大府市北崎町大根2
TEL (0562)47-2391(代) FAX (0562)47-2395
<http://www.meiki-ss.co.jp>

三笠産業茨城工場を見学

JPO 合同研修会

上野精養軒で講演会も開催

11月6日東日本、西日本、愛知の青年部による合同研修会が関東地区で開催された。参加者は東日本11名、西日本13名、愛知5名で各事務局からも1名参加した。

石岡駅で三笠産業の林田監査役の出迎えを受け、マイクロバスで工場へ。到着後会議室で工場長から工場の概要、設備、生産状況などの説明を受け、早速工場内を見学。キャップの成形が行われており、全てクリーンルーム化され人の手が一切触れない無人化工場で衛生管理が徹底されていた。

東京に戻り上野精養軒で講演会を開催した。講演の前に東日本曾我部会長より、昔は東・西・愛知と交流があった。これを切っ掛けに今後も交流を続けたいと挨拶があった。

続いて、見学の案内をお願いした三笠産業林田監査役を講師に迎え、「キャップ人生40年考え抜いて特許出願！－三笠産業の知的資産経営による発展－」の演題で講演を聴講した。林田監査役は現在西日本の副会長、全日本の理事の要職にある。内容は、18項目のサブタイトルに分かれていたので内容を理解し易かった。

三笠産業はキャップ製造に特化し、1994種類の製品と725社の得意先を持っている。経営は広く浅く1社に偏らないことが大切である。林田氏は40年間キャップの商品開発一筋に、毎年必ず新商品を開発して市場に提案し、独自技術



三笠産業茨城工場前で



中締めをする愛知の尾崎会長

の開発を成し遂げてきた。また、他社にまねされないよう特許で技術を守ることが肝心で、現在シェアはナンバーワンである。

今後の方針としてユニバーサルデザインの提言、リサイクルキャップの改善、環境配慮型キャップの開発などを考えている。いつも新しいアンテナで情報収集をし、商品開発に繋げていくことが必要である。

最後に、現在の経営理念は「創意工夫を常とし、自己啓発に努め、改善・改革を行い個人の幸福を確立し、会社の発展をもって社会に寄与することを目的とする」を掲げ、組織経営には社員個々が自ら知恵を出さないとやっていけない。そのためには人を育てることが一番大切である。皆さんも人を育てることを行っていただきたいと講演を締め括った。

懇親会は東日本植田副会長の司会で始まり、来賓の日精樹脂工業依田社長の挨拶に続き、西日本木村会長の乾杯で歓談となった。3つの丸テーブルにそれぞれ分かれ、名刺交換など親睦を深めた。最後に中締めを愛知の尾崎会長が行い、期待していた以上に楽しい会で是非今後も続くようお願いしたいとあいさつ。

翌7日は、午前9時にホテルのロビーで集合、JRで幕張メッセに向かい、IPFを見学した。経済環境が厳しい最中での開催となったが、初日にもかかわらず見学者も結構多かった。あらゆる製品が環境に配慮した省エネ化、省資源化をコンセプトに開発、製品化されていた。

わが社 ひとこと

会社方針

「結果で示せ 仕事の責任」

株式会社村上精機

昭和48年創業者村上直治が会社方針を掲げ、主に自動車関連部品のブロー型、発泡型製造からスタートし、現在はあらゆる分野のプラスチック製品を開発設計・金型製造・成形・組付けまで一貫生産を行い今日に至りました。

平成15年思いがけない創業者の突然の他界で2代目を継承してきましたが、ISO9001取得など組織作りに力を注ぎ、今後は次世代にバトンを繋ぐため、この度ご縁があり入会させて頂きました。幅広いネットワークにて国内外問わず、あらゆる分野にも対応出来るよう全社員が一致団結して参りますので、皆様のご指導・ご支援を賜りますようお願い致します。

【所在地】〒456-0068

名古屋市南区南野3丁目133番地

TEL：052-612-1846

FAX：052-612-9439

e-mail：e.murakami@crest.ocn.ne.jp

【代表者】村上恵津子

金型へのPVD処理実績No.1

総合表面処理メーカー

ユケン工業株式会社

昭和26年設立以来、当社は創造性提案型企業を目指し、洗浄技術をコアに各種表面処理薬品（工業用洗浄剤、めっき添加剤など）の製造販売、プラスチック部品へのめっき加工、各種金型へのPVDセラミックコーティングなどを手掛けており、幅広い分野でご活用頂いております。

昨今、あらゆる分野で環境対応ニーズが高まり、省資源面で多大な効果を発揮する金型へのPVDコーティングに対する期待も益々高まって来ております。

鍛造、プレス加工、樹脂成形、鋳造などの加工で引き続きお役立て頂けますよう、永年培って参りました洗浄技術をベースに、より環境にやさしい、信頼性の高いPVDコーティングを提案して参りますので、今後ともご指導頂きますよう宜敷くお願い致します。

【金型コーティング：高棚工場】

〒446-0053

愛知県安城市高棚町土井ノ内123番地

TEL：0566-73-2131 FAX：0566-92-7134

URL：<http://www.yuken-ind.co.jp/>

【加工品事業部】井原 仁史

工業薬品・合成樹脂・食品添加物・包装材料



睦物産株式会社

〒450-0002

本社：名古屋市中村区名駅5丁目23番5号

TEL 052-571-5121(代) FAX 052-565-0346

支店：東京・大阪 営業所：静岡

ISONO

いそのプラスチック材料

有限なる資源を限りない人生の幸福のために

いその株式会社

名古屋市東区相生町55 〒461-0012

TEL(052)931-1211(代)

FAX(052)930-1975

いその、中部日本工業を見学

中部日本プラスチック職業訓練校

中部日本プラスチック職業訓練校は、材料の授業の一環で9月6日にいその(株)、9月19日に中部日本工業(株)をそれぞれ見学した。

〈いその(株)工場見学〉

【(株)鈴木化学工業所：S.K】

目的

材料の授業項目で教育を受けたプラスチック材料のリサイクル方法について、どのように粉砕されて顧客のニーズに応えるために商品化されているかを、見て聞いて学ぶことを目的とする。

見学内容

始めに、「エコマーク・グリーン調達対応」のプレゼンテーションを聞いての感想を以下に記した。

・プラスチックのリサイクル中心に、今まさに時代が求めているエコロジーに最も力を入れている企業であることを、プレゼンを聞いて強く感じた。また、顧客要求特性に合わせて材料設計を行い、再利用を可能にした「エコプラスチック」については、しっかりと適材料による廃プラスチックの再生化フローをもとに、材料証明書やMSDS（安全データシートのこと、材料の取扱い説明書になる）、環境負荷物質に関する対応などをユーザーに提供しているところは、現在の話題になっている食品汚染で信頼を失うような企業とは違って、徹底したユーザーへの配慮と安心感を与えている印象を受けた。

次に工場を見学して気づいたこと、感じたことを以下に記した。

・あまり細々と機械を配置しておらず、広々とした工場である印象を受けた。タンブラー設備が実際に稼働しているのを拝見でき、その大きさと回転している姿に迫力を感じた。試験設備

室では万能試験機やFT-IR赤外分光光度計などの様々な試験機があった。これだけの機械が設備されているので、ここに集荷される廃プラスチックの選別が困難であるように思えた。最後に今回の見学の全体を通して感じたことを、以下に記した。

・集荷される廃プラスチックの粉砕するときの分別は、経験からなる五感が重要だと言っていた。だが、細かい鉄等の目視では分別困難なものは、水の比重分離で洗浄を行うと言っていた。いくら経験があっても、機械に頼らざるをえない状況（物質）もあるのだと思った。また、同社はPETボトルのキャップの数に応じて、ワクチンを貧しい国々に支援しているボランティア活動をしていると報告していた。ただでさえ忙しい日々の中で、環境に関して海外に反映する活動していることと、その活動は企業が行っているボランティアであることが、まさしく同社の経営理念である「プラスチックのリサイクルによって環境改善に寄与し、社会に貢献する。」に当てはまる行動であると感心できた。

【(株)大京化学：T.S】

「いその(株)」へ到着後、川畑工場長の挨拶に始まり、会社概要、経営理念等の説明を受けた後、工場の中を見学させて頂いた。

最初にタンブラという機械を拝見。これは材料を均一に混合させる機械との事、ずっと同じ材料を混ぜている訳では無い為、材料を変更させる際は念入りに清掃を行うとの事（異物、異材を混合させない為）

次に再生材の検査工程を拝見。回収した廃プ



見学先の「いその」